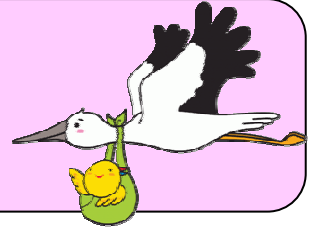


ひょうご 子ども未来通信 4月号



http://web.pref.hyogo.lg.jp/hw08/hw08_00000008.html

新ひょうご子ども未来プランを発表 (3月29日)



県では、平成17年8月に少子対策本部(本部長:知事)を設置以降、同年度末には、「ひょうご子ども未来プラン」(17~21年度)を策定して、総合的・先導的な少子対策に取り組んできました。このたび、少子化を巡る様々な状況の変化に加え、県民の皆様からいただいた様々な提案・意見等も踏まえ、22年度から向こう5年間を計画期間とする「新ひょうご子ども未来プラン」を策定しました。今後、各地域で、このプランを基に少子対策について話し合うリレートークを積極的に開催していきます。

(問)県少子対策課 078-362-4183

1 新プランの理念

子育て支援制度の充実や働き方の見直しによる、子育て支援環境の整備
家庭・地域・職域で共感をもって子どもたちを包む、安心と喜びの子育てを推進
家庭や地域の大切さ、失ってはならないかけがえのないものを次世代につなぐ

2 出生数目標 平成23~27年の5年間

24万人
(年間4.8万人)

3 施策体系

〔6本柱〕

子どもを産み育てる

だれもが安心して妊娠・出産を迎え、子どもはすくすく、親はいきいきと、ともに喜び、ともに成長するための支援を行います。

安心の妊娠・
出産を

親の子育て力
アップと親子の
仲間づくりへ

子どもの成長を支える

保育所・幼稚園や認定こども園、小児医療体制の強化、障害児への支援など、子どもの成長を見守る安心・確実な環境づくりを進めます。

豊かな人間性を育む

さまざまな体験や交流を通じた豊かな人間性づくりや仲間づくり、子どもの悩みなどへの適切なサポートを行います。

若者の自立を支える

就業へのサポートと、出会い・結婚への支援を行い、未来を担う若者の自立を応援します。

子育てと仕事の両立を支援する

男女とも働き方を見直し、子育てと仕事のバランスがとれた環境づくりを推進します。

“良きおせっかい社会”による家庭応援

かけがえのないものを次代につなぐ思いを共有し、“良きおせっかい社会”による安心と協働の子育てを推進します。

〔アクション25(支援項目)〕

- 1 安心のマタニティライフへ
- 2 不妊に悩む夫婦への支援は
- 3 出産直後の支援は
- 4 親子の仲間づくりと子育て相談
- 5 基本的な生活習慣を取り戻す
- 6 親の子育て力アップを応援
- 7 保育所・幼稚園や認定こども園等による子育ての推進を
- 8 地域におけるきめ細かな子育てサービスを
- 9 子どもたちのための安心の医療へ
- 10 障害児への支援は
- 11 子育てを応援する経済的支援は
- 12 学校教育での様々な体験活動は
- 13 地域における体験の場づくりを
- 14 確かな学力の確立や豊かな心の充実へ
- 15 子どもたちの心を支えるシステムは
- 16 若者の就業支援は
- 17 出会い結婚の支援は
- 18 結婚・子育てを支える住まいは
- 19 子育てと仕事が両立できる職場環境づくりへ
- 20 再就業への支援は
- 21 かけがえのないものを次代につなぐ家庭・地域づくりへ
- 22 “地域祖父母”の活躍を
- 23 大切な子どもと家庭を守るセーフティネットは
- 24 安心のまちづくりは
 - 子どもたちの安全を守る
 - 地域コミュニティの拠点づくりは
 - 安心のユニバーサル社会を
- 25 子育てを大切にする社会への協働

詳しくは [ひょうご子ども未来プラン](#) と [検索](#)

ひょうご子ども未来フォーラム2010を開催(3月26日)

県は、社会全体による協働の子育て支援を推進するため、同フォーラムを400名の参加のもと、県公館で開催。基調講演では、森茂起・甲南大学教授(新ひょうご子ども未来プラン策定協議会会長)が新ひょうご子ども未来プランを紹介。パネルディスカッションでは、有光穂子・兵庫県経営者協会女性産業人懇話会(VA21)代表幹事から「結婚・出産のために仕事を断念しなくてもよい社会システムの構築が必要」、小崎恭弘・神戸常盤大学短期大学部准教授から「母親一人で子育てをする現状が虐待やノイローゼを生んでおり、父親も育児参加するべき」、小林公正・兵庫県保育協会会長から「子育てを支えている人を支えるしくみが必要」、前川裕司・NPO法人コムサロン21理事長から「企業などを巻き込み、自然に男女が出会える機会を創りたい」などの意見が交わされ、コーディネーターの森教授は「各地域の子育て支援活動の連携はできつつあるが、さらにそのネットワークが広がり、子育ての質が高まることを期待したい」と締めくくりました。



「子育て応援元気アップ賞表彰式」「こうのとりの大使委嘱式」を同時開催



地域の子育て支援活動等に優れた取り組みのあった28団体等への同賞の表彰式と独身男女の出会い・結婚を支援する同大使の委嘱式を併せて開催。井戸知事から「皆さんと連携して子育て環境の整備に力を入れていきたい。一層のご活躍を期待しています」とエールがありました。



(問)県少子対策課 078-362-4232

県と「子育て応援協定」を締結する企業・団体が広がっています

県は、安心して子どもを産み育てられる職場環境づくりや地域の子育て支援活動に取り組む673社・24団体(平成22年度末現在)と同協定を締結。引き続き同協定を締結する企業・団体を募集しています。

(問)県少子対策課 078-362-4184

兵庫県保育協会と協定を締結(3月17日)

締結式では、小林公正・会長(会員 537 施設)と清原・県理事兼少子対策本部事務局長が協定書を交換。小林会長は、女性の再雇用促進に向けての取り組みやひょうご出会い支援事業への参加などを表明。続いて「こうのとりの大使」委嘱式が行われ、代表10名に清原理事から委嘱状が交付されました。



社団法人加古川青年会議所と協定を締結(3月6日)

加古川市立野口南小学校での同会主催行事「未来に響け、新たなハーモニー」のオープニングで小学生や保護者が見守る中、森貴彦・理事長と清原・県理事が協定書を交換するとともに、「まちの寺子屋」看板を授与。森理事長は、地域における子育て支援やひょうご出会い支援事業への積極的な参加を表明しました。



第1回ひょうご仕事と生活のバランス企業表彰を実施(3月1日)

ひょうご仕事と生活センターは、多様な働き方の導入や、仕事と家庭の両立の促進、多様な人材の活用等の「仕事と生活のバランス」推進の先進的な取り組みを実施している企業5社の表彰式を県公館で開催。表彰式後、受賞企業の代表3社による事例発表が行われ、男性労働者の育児参加促進(池田電機株)、自由出勤制度(株エス・アイ)、育児支援金の支給(三ツ星ベルト株)などの取り組みが紹介されました。【受賞企業】池田電機株、(株)エス・アイ、(株)協同病理、三ツ星ベルト株、モロゾフ株



(問)ひょうご仕事と生活センター 078-381-5277

「子育て応援メール」の配信をスタートします（4月20日配信開始）

県では、携帯電話を活用して、子育てに関する様々な情報を配信する「子育て応援メール」の登録者を募集しています。

主な配信内容

- ・子育て相談窓口（しつけ、発達に応じた子育て、子育ての不安や悩み相談先など）
- ・子育て支援制度（こども医療費助成制度、多子世帯保育料軽減事業など）
- ・子育て支援イベント（こどもの館やまちの子育てひろばのイベント情報など）

配信頻度：月3～4回程度

登録方法：右上のQRコードを携帯電話で認識し、記載のメールアドレス(regist@magazine.hyogo-kosodate.jp)メールを送信。返信されるメールに記載のURLにアクセスのうえ、必要な項目を入力し、登録してください。

(問)県少子対策課 078-362-4232



「わくわく親ひろば」フォーラムを開催（3月5日）

県では、親子・三世代が子育てを楽しみながら、共に学ぶ学習会を「わくわく親ひろば」と名づけて、各団体・グループでの開催を支援しており、この取組をさらに広げるためのフォーラムを220名の参加のもと、兵庫県民会館で開催。最初に、地域で親ひろばを普及する親ひろばサポーターの委嘱状の交付が行われ、続く勝木洋子・神戸松蔭女子学院大学教授による基調講演では、親学びや地域との関係を通して子育ての負担を軽くすることを参加者に呼びかけ、最後のパネルディスカッションでは、実践事例の紹介と親ひろばを地域で広げるための提案等について話し合われました。

(問)県男女家庭室 078-362-3169



「アマチュア人形劇コンクール」を開催（3月7日）

県立こどもの館が、児童の健全育成に向けて活動しているアマチュアグループによる同コンクールを開催。姫路市、たつの市や神戸市などから計8グループが参加し、「きつね権現」を演じた「人形劇のジャビジャビ」が、こどもの館賞を受賞。審査員の清水正年氏(人形劇団京芸)と奥村佳子氏(人形劇団クラルテ)からは「これからも人形劇に対する強い思いをもって取り組んでほしい」との激励がありました。



こどもフェスティバルのご案内

月日：5月5日(水・祝)

場所：県立こどもの館

内容など詳細は、次号並びにこどもの館ホームページなどで、今後ご案内します。

(問)県立こどもの館 079-267-1153

県民局レポート ～東播磨県民局～

◆東はりま地域ひろば交流会を開催（3月15日）

東播磨県民局は、80名の参加のもと、地域ぐるみの子育て支援を展開している4つのひろば事業(まちの子育てひろば・子どもの冒険ひろば・若者ゆうゆう広場・わくわく親ひろば)の開設者が、情報交換し、地域に根ざした子育ての大切さや支援の必要性を考える同交流会を加古川市内で開催。「男女共同参画の視点から見た子育て」と題した中村和子・小野市ヒューマンライフグループ 課長による基調講演とともに、あそびに関するワークショップなどが行われ、参加者は楽しみながら子育てについて学ぶことができました。

(問)東播磨県民局 079-421-9102



地域団体・NPO の活動紹介

◆NPO 法人全国認定こども園協会「全国認定こども園トップセミナー神戸大会」(2月27日)



同法人は、全国から認定こども園・保育所・幼稚園の園長など 200 名の参加のもと、同大会を開催。井戸知事は「働く親が安心して社会進出ができるよう子どもを社会全体で育てる必要があるが、その先陣が認定こども園である」と挨拶。内閣府の「認定こども園の在り方に関する検討会」座長の山縣文治・大阪市立大学教授の基調講演や先進事例の発表などが行われ、参加者は、認定こども園に対する理解を深めていました。

(問) NPO 法人全国認定こども園協会 0283-25-4202

◆社団法人全国子ども会連合会「全国読み聞かせリレーション・子どもと大人の読み聞かせパーティーと指導者養成セミナー」(3月21日)



同会は、地域の親子や子ども会の指導者など 81 名の参加のもと、同事業を実施。紙芝居や本の読み聞かせの実演に、子どもたちは物語に引き込まれ、問いかけにも大きな声で答えていました。また、午後からのセミナーでは、指導者を対象に実演研修が行われ、受講者は今後の活動に向け、読み聞かせへの理解を深めました。本物を見る、聞く感動を子どもたちに伝え、豊かな感情や表現力を引き出し、育てるきっかけをつくった 1 日でした。

(問) 兵庫県子ども会連合会 078-221-4081

◆NPO と行政の子育て支援会議「NPO・大学・企業・行政が連携した「子育て支援メッセ」(2月27日)

同会議は、社会全体で子育て支援を進めていく気運を高めるため、神戸市内で同メッセを開催。300 人を超える親子が参加し、NPO や大学、企業などが出展した子育て支援活動を紹介するブースやハーブの体験演奏、人形劇などを楽しみました。また、伊藤篤・神戸大学大学院教授による「みんなで支える子育て支援」と題した講演を元に意見・情報交換を行い、「子育て支援には、人と人とのつながりが大切」などの意見が出されました。



(問) 県少子対策課 078-362-4184

◆らびっと育ちゃん(養父市)「永田萌さんを招いての読み聞かせ」(2月27日)



まちの寺子屋でもある同団体が、永田萌さんを招いて、絵本の読み聞かせを実施。参加した 160 名の親子は、「春の足音」・「水の旅はるか」の絵本 2 作品をスクリーンに映しての読み聞かせを楽しみました。また、子どもたちは目を輝かせながら、半分隠した絵が何かを当てるクイズに答えていました。

(問) らびっと育ちゃん 079-662-7765

◆神戸キワニスクラブ

同クラブは、入院生活を少しでも楽しく過ごせるように子どもたちを癒し、医療関係者と子どもたちとのコミュニケーションを円滑にする特別な人形「キワニスドール」をつくり、病院や施設へ寄贈しています。設立 40 周年を記念し、多くの方にその存在を知っていただくよう、県内各地で「キワニスドールをつくる会」の開催を予定しています。また、併せて、キワニスドールをつくる団体も募集しています(材料は当クラブが用意し、説明に伺います)。詳しくは同クラブ事務局まで。



(問) 神戸キワニスクラブ FAX:078-271-7203

編集部からのお知らせ

「ひょうご子ども未来通信」は、市町、企業、商工会議所・商工会、青年会議所、地域団体・NPO、県関係機関などや希望者に電子メールにより配信しています。新たに配信を希望される方は、下記アドレスに「ひょうご子ども未来通信・配信希望」とご送信ください。

兵庫県少子対策本部事務局(健康福祉部こども局少子対策課) : E-mail:shoshitaisaku@pref.hyogo.lg.jp